

新たなCO₂削減目標（事務局案）に対する意見について

1 意見集約内容

事務局案として提示した、新たなCO₂削減目標

目標:①「2030(平成42)年度において、CO₂排出量を2013(平成25)年度比で**24%削減**」

目標:②「2030(平成42)年度までにエネルギー消費量を2013(平成25)年度比で**17%削減**」

についての各委員の考え方。

2 集計結果

(1) 回答数 13名

適当だと思う。	修正した方がよい。
12名	1名

(2) 記載のあった意見は、別紙のとおり。

3 意見概要

(1) 適当だと思う

【削減目標値について】

- ・新たなCO₂削減目標値を設定した、削減根拠（施策ごとの削減目標値）等を示して欲しい。これにより、削減目標値の達成の難易度が把握できる。
- ・削減根拠等から、CO₂排出量が全国的に見て高い自治体として、より高い目標を設定することが可能か検証して欲しい（例えば、東京都が検討中の削減目標値30%）。

【具体の行動計画について】

- ・各部門の削減数値も2030年目標として提示すべき。算出された目標値は、バックキャスト手法から裏づけし、大きな乖離がある場合には見直しすべき。まずは、省エネテーマ及び各部門の2030年における目標数値化作業が必要。

【温暖化対策の普及啓発について】

- ・区報に温暖化対策の問題を大々的に取り上げてもらい「どうすべきか」を話し合い行動して行くべき。
- ・目標数値に対し、どうやればこの数値を達成できるかを区報等に施策等の例を挙げて欲しい。

(2) 修正したほうがよい

【費用対効果の検証について】

- ・「新たなCO₂削減目標（事務局案）」には、「社会的費用便益分析」の考え方が取り入れられていない。「社会的費用便益分析」を事前に行ない、その有効性を確認のうえ目標案を提示すべき。